

2 成果指標一覧

基本施策の目的（ゴール）の達成度や進捗を測るための指標である成果指標は、基本施策を評価するための参考数値であり、この数値のみをもって基本施策の成果とするものではありません。基本施策の評価は、取組の進捗状況等を踏まえて総合的に行います。

基本的方向性1 子どもが身につける力

子どもが心身を成長させ、自ら学び、考え、判断し、行動できる力を育みます。

基本施策 1 確かな学び				
ゴール	成果指標		現状値 (令和7年度)	目標値 (令和12年度)
自ら学びを進めることができる子ども	新規	授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思うと答えた児童生徒の状況スコア（※1）	小6：68.6 中3：65.4	小6：74.0 中3：70.0
	新規	授業で学んだことを、次の学習や実生活に結び付けて考えたり、生かしたりすることができると思うと答えた児童生徒の状況スコア（※1）	小6：70.0 中3：63.5	小6：75.0 中3：70.0
	新規	学力が伸びた児童生徒の割合（※2）	小5国：77.5% 小5算：68.7% 中2国：59.4% 中2数：79.1%	小5国：83.0% 小5算：74.0% 中2国：70.0% 中2数：84.0%
基本施策 2 豊かな心				
ゴール	成果指標		現状値 (令和7年度)	目標値 (令和12年度)
未来を明るく語り、前向きに社会へ向けて進むことができる子ども	新規	「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思う（当てはまる・どちらかといえば当てはまる）」と答えた児童生徒の割合	小6：78.0% 中3：76.6%	小6：85.0% 中3：83.0%
	新規	「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う（当てはまる・どちらかといえば当てはまる）」と答えた児童生徒の割合	小6：78.9% 中3：69.3%	小6：81.0% 中3：72.0%
基本施策 3 健やかな体				
ゴール	成果指標		現状値 (令和7年度)	目標値 (令和12年度)
自らの健康を育み守ることができる子ども	新規	食に関心を持ち、自ら健全な食生活を実践しようとしている児童生徒の割合	小5：87.7% 中2：85.9%	小5：90.0% 中2：90.0%
	新規	新体力テストの総合評価 A～C 判定の児童生徒の割合※3	(令和6年度) 小5：59.3% 中2：71.6%	小5：64.0% 中2：74.0%
	新規	「運動やスポーツをすることは好き（当てはまる・どちらかといえば当てはまる）」と答えた児童生徒の割合	(令和6年度) 小5：87.8% 中2：81.5%	小5：89.0% 中2：83.0%

※1（当てはまる（％）×3＋どちらかといえば当てはまる（％）×2＋どちらかといえば当てはまらない（％））/3として算出

※2 IRT（項目反応理論）を活用した堺市学力・学習状況調査において学力レベルを伸ばした児童生徒

※3 総合評価は、新体力テストの8項目の得点を合計し、A～Eの5段階で判定したもの（Aが最も得点が高い）

新規：社会状況の変化や新たな課題への対応を踏まえ、第4期プランで新たに設定

継続：これまでの取組の進捗等を踏まえ、第3期プランから引き続き設定

現状値：より精緻な分析と目標値の設定に向けて、令和7年10月時点の最新値を記載

調査資料	成果指標設定の背景、理由
全国学力・学習状況調査	本市では、子どもが「総合的な学力」を身に付けるために、子どもが自ら課題を見つけ、学びの内容や、学びの方法を選択したり表現したりすることができるような主体的な学びを進めています。子どもたち自身が、自ら考え、自ら取り組む意識が高まっているという実感を持つことは、自ら学びを進める力が育まれていることを表す根拠の1つになると考えました。
全国学力・学習状況調査	本市では、子どもが「総合的な学力」を身に付けるために、子どもが学んだことを次の学習や実生活に結び付けて考えたり、生かしたりすることで、よりよい未来を作っていくとする行動力につながると考えています。子どもがそのような学びの実感を持つことは、自ら学びを進める力が育まれていることを表す根拠の1つになると考えました。
堺市教育委員会調べ	「総合的な学力」の向上に向けて、個々の児童生徒の学力状況に着目し、それぞれに応じた支援を行うことは重要です。学力の伸びた児童生徒の割合が向上することは、つまずきのある子どもへの支援等、個々の児童生徒に応じた実践ができていることの根拠の1つになると考えました。
調査資料	成果指標設定の背景、理由
全国学力・学習状況調査	子どもが前向きに社会へ向かって進むために、多様な文化や価値観を尊重できる豊かな心の育成は重要です。自分と違う意見について考えるのは楽しいと思う児童生徒の割合が増えることは、他者の異なる意見や考えを前向きな姿勢で受け入れ、理解しようとする心が育まれていることを表す根拠の1つになると考えました。
全国学力・学習状況調査	持続可能な社会の創り手として、子どもたちが主体的に社会に参画することは重要です。地域や社会のために何かしてみたいと思う児童生徒の割合が増えることは、子どもたちに社会参画への意識が育まれていることを表す根拠の1つになると考えました。
調査資料	成果指標設定の背景、理由
堺市教育委員会調べ	栄養バランスのとれた食事をとり、生涯に渡って自らの健やかな体を育み守る力は、食育の取組を通じて育成する必要があると考えます。食に関する子どもの意識や行動を測ることは、食育の取組の成果を評価するための根拠の1つになると考えました。
全国体力・運動能力、運動習慣等調査	児童生徒が将来にわたって健やかに過ごすために、体力の向上は重要です。児童生徒の体力水準を客観的に把握し、低位層（D・E判定）への効果的なアプローチを行う体力向上に向けた取組の成果を評価するための根拠の1つになると考えました。
全国体力・運動能力、運動習慣等調査	子どもが自らの健康を育み守ることができる力は、体育・保健体育科の授業や体力向上の取組を通して育む必要がある態度であると考えます。運動やスポーツをすることが好きと思う児童生徒の割合の増加は、授業等の成果を評価するための根拠の1つになると考えました。

第1章
本市の教育・福祉・保健・医療・文化・スポーツ・環境・国際交流

第2章
教育・文化・スポーツ・環境・国際交流

第3章
教育・文化・スポーツ・環境・国際交流

基本的方向性1
子どもが身につける力

基本的方向性2
豊かな心

基本的方向性3
健やかな体

第4章
プランの推進体制

資料編

基本的方向性2 子どもの学びを支える教職員・学校の姿

誰一人取り残さず、子どもの学びを支えます。

基本施策4 学校マネジメント力			
ゴール	成果指標	現状値 (令和7年度)	目標値 (令和12年度)
すべての教職員と子どもが安心して学び、働き、成長できる学校	継続 前年度までに、近隣等の小中学校と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定など、教育課程に関する共通の取組を行った学校の割合	小：72.9% 中：83.7%	小：80.0% 中：86.0%
	新規 「私たちの職場では、お互いに理解し認め合っている（そうだ・まあそうだ）」と答えた教職員の割合	82.4%	90.0%
	新規 勤務時間外在校等時間が月平均45時間以下の教員の割合	(令和6年度) 76.4%	87.0%
基本施策5 誰一人取り残さない教育			
ゴール	成果指標	現状値 (令和7年度)	目標値 (令和12年度)
子どもの学びの機会を保障し、多様な学びの場と学習方法が選択できる学校	新規 「これまでに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていた（当てはまる・どちらかといえば当てはまる）」と答えた児童生徒の割合	小6：82.4% 中3：76.4%	小6：90.0% 中3：85.0%
基本施策6 子どもの安全・安心			
ゴール	成果指標	現状値 (令和7年度)	目標値 (令和12年度)
子どもが安全・安心に過ごすことができる学校	新規 「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる（当てはまる・どちらかといえば当てはまる）」と答えた児童生徒の割合	小6：74.8% 中3：79.6%	小6：80.0% 中3：85.0%

調査資料	成果指標設定の背景、理由
全国学力・学習状況調査	課題が複雑化・多様化するこれからの学校で教育活動を行うにあたり、多様な主体との連携を行う等、自校以外との関わりを持ち、それぞれの強みをいかすことで、多くのアイデアや工夫が生まれやすくなります。様々な連携を通して、教職員の働き方や子どもの学びにも選択肢が増え、多様な実践に繋がることを期待できます。 これからの学校マネジメントにおいても、こうした視点を取り入れることは重要であり、第3期から継続して、近隣の小学校と小学校、小学校と中学校の連携の広がりや測ることが、その根拠の1つになると考えました。
ストレスチェック調べ	管理職のマネジメントにより良好な職場環境を構築することが、教職員それぞれのウェルビーイングの向上につながると考えています。お互いに理解し認め合うことができている職場環境で働いているという教職員の実感は、ウェルビーイングの向上が図られる職場環境であることの根拠の1つになると考えました。
堺市教育委員会調べ	本市では、長時間勤務の解消や職場環境の改善に向けて、教職員の働き方改革に取り組んでいます。勤務時間外在校等時間について測ることは、学校園、教育委員会事務局での取組改善等を客観的に測ることができ、働き方改革の成果を評価するための根拠の1つになると考えました。
調査資料	成果指標設定の背景、理由
全国学力・学習状況調査	様々な特性のある子どもたちが授業を受け、それぞれ「自身にあった学びができた」と実感することは重要です。本成果指標を通して、教職員が専門性や指導力を生かして、児童生徒の個々の状況にあった学習の機会や学習方法を提供し、指導を充実できているかを測ることは、ゴールの実現に向けた取組等の成果の根拠の1つになると考えました。
調査資料	成果指標設定の背景、理由
全国学力・学習状況調査	学校で子どもが安心して過ごすために、「いつでも相談できる」という心理的な安全性は重要な要素です。困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できると児童生徒が思えることは、安全で安心な環境や状況を、先生や学校にいる大人が醸成できていることを表す根拠の1つになると考えました。

第1章 本市の教育・子育て支援の現状と課題

第2章 現状と課題の整理

第3章 施策の方向性

基本的方向性1

基本的方向性2

基本的方向性3

第4章 プランの推進体制

資料編

基本的方向性3 こども・学校を支える教育環境

こどもを中心にすべての人が連携・協働し、学びを支える教育環境を充実させます。

基本施策7 持続可能な教育環境				
ゴール	成果指標		現状値 (令和7年度)	目標値 (令和12年度)
適切かつ効果的に学習を行うことができる教育環境	新規	「コンピュータなどのICT機器の活用に関して、学校内外において十分に必要なサポートが受けられている（そう思う・どちらかといえばそう思う）」と答えた学校の割合	小：68.5% 中：76.8%	小：95.0% 中：95.0%
	新規	学校体育館の空調（冷房）の整備率	(令和6年度) 0%	100%
基本施策8 学校を支える支援体制				
ゴール	成果指標		現状値 (令和6年度)	目標値 (令和12年度)
こどもを取り巻く多様かつ複雑な課題に対応する支援体制	新規	学校外で専門機関等の相談・指導等を受けている不登校児童生徒の割合	23.8%	34.3%
基本施策9 社会で支えるこどもの育ち				
ゴール	成果指標		現状値 (令和7年度)	目標値 (令和12年度)
学校・家庭・地域が相互に理解し、それぞれが多様な機関等と相互支援できる環境	新規	「コミュニティ・スクールや地域学校協働活動等の取組によって、学校と地域や保護者の相互理解が深まった（そう思う・どちらかといえばそう思う）」と答えた学校の割合	小：83.7% 中：90.7%	小：90.0% 中：94.0%
	新規	「読書は好き（当てはまる・どちらかといえば当てはまる）」と答えた児童生徒の割合	小6：68.6% 中3：51.8%	小6：76.0% 中3：66.0%
	新規	市立図書館における市民一人当たり年間貸出点数	(令和6年度) 4.6点	4.8点

調査資料	成果指標設定の背景、理由
全国学力・学習状況調査	よりよい教育環境の整備に向けて、ICT環境は重要な要素です。ICT機器やネットワークの整備、維持管理等、学校でICTをこどもの学びの活用するためのサポートが適切に実施できているかを測ることは、よりよい教育環境に向けた整備の進捗を測る根拠の1つになると考えました。
堺市教育委員会調査	児童生徒から学校体育館の空調（冷房）設置についての意見が多くあったことから、その整備率を測ることは、児童生徒にとって学びやすい、過ごしやすいよりよい教育環境に向けた整備を実施できていることを測る根拠の1つになると考えました。
調査資料	成果指標設定の背景、理由
堺市教育委員会調査	不登校児童生徒の対応に関して、現在は学校内の教職員等だけで対応している事例の中には、学校外の専門機関等と連携し対応する必要がある事例もあると考えられます。そのような課題の解決に向けて、学校外との連携を一層充実させる必要があります。目標値の設定に当たっては全国の割合を参考にし、直近の令和6年度の全国値を目標値にしました。「学校外で専門機関等の相談・指導等を受けている不登校児童生徒の割合」が向上することは、それを必要とする児童生徒を適切に支援するための連携が進んでいるという根拠の1つになると考えました。
調査資料	成果指標設定の背景、理由
全国学力・学習状況調査	こどもたちを地域全体で育む地域とともにある学校、学校を核とした地域の醸成に向けた取組の推進が求められている背景を踏まえ、学校、地域、保護者の相互理解の度合いを把握することは、学校・家庭・地域間で相互支援できる環境が整っているかどうかを測る根拠の1つになると考えました。
全国学力・学習状況調査	児童生徒が読書に親しみをもち、学びの機会を豊かにすることは重要です。読書が「好き」と感じることは、読書に対する肯定的な態度や関心の表れです。読書が「好き」という指標の向上は、読書に対して、家庭や地域、市立図書館、学校等が連携して読書活動を支援している啓発活動の成果を表す根拠の1つになると考えました。
堺市教育委員会調査	こどもだけでなくすべての市民にとって読書活動は重要です。市立図書館における市民一人当たり年間貸出点数を測ることで、地域全体における読書活動の活発さや図書館の利用状況を確認することができ、図書館が身近な学びや情報の拠点として機能しているか、また、家庭や地域での読書習慣を間接的に測ることができるため、市民の読書活動への啓発等の成果を表す根拠の1つになると考えました。

第1章 本市の教育環境・施策の概要
第2章 本市の教育環境・施策の概要
第3章 基本的方向性1
基本的方向性2
基本的方向性3
第4章 プランの推進体制
資料編